

平成 23 年度第 1 回平塚市文化振興委員会会議録

【日 時】平成 23 年 5 月 27 日（金）13:30～15:30

【会 場】平塚市民センター 中会議室

【出席者】

委員 10 名

石川幹夫委員、岩崎由紀子委員、山川勝久委員
片山興大委員、小中山彰委員長、関本耕司委員
牛田洋子委員、中野恵子委員、平野恵美子副委員長
森伸一委員

事務局 3 名

文化・交流課長 課長代理 担当 1 名

傍聴人 なし

【配布資料】

- 1 平成 23 年度第 1 回次第
- 2 平成 22 年度第 2 回会議録
- 3 資料①文化振興に係る会議等進行状況
- 4 資料②平成 23 年度基金活用事業概要
- 5 資料③文化芸術の振興に関する基本的な方針
- 6 資料④平塚市の今後の文化振興施策

1. 開会

文化・交流課長

2. 委嘱状交付

新委員へ委嘱状を交付

山川勝久委員（中学校校長会） 牛田洋子委員（(財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団）

3. 議事録の確認

事務局より説明

質問、意見等なし

4. 議題

(1) 平成 23 年度基金活用事業概要について

資料：①文化振興に係る会議等進行状況

②平成 23 年度基金活用事業概要

事務局より説明

○平成 22 年度の会議開催状況、検討内容の一覧と、平成 23 年度の会議予定、検討内容の一覧になっている。平成 23 年 3 月は震災の影響で、本来開催すべき会議が中止になった。平成 23 年度の会議として 3 回予定しているので、御協力をお願いしたい。庁内の文化振興に係る会議も文化振興委員会と開催時期を合わせ、両方の協議内容を並行させていきたい。

○昨年度、平塚市文化振興基金の活用方法を協議していただいた。その内容をふまえ、平成 23 年度の事業に予算付けされている。囲碁に関する既存事業の拡充と、アーティストの支援事業を推進すべきという御意見を反映させた内容となっている。

【意見等】

委員長：これら基金を活用する事業を、震災の支援に役立てることを検討する必要はあるか。

委員：事業を企画したときの趣旨があると思うので、募金箱を置く等、できる範囲の協力でよいのではないか。

委員：ミニコンサートの項目に、小・中学生ということばが出てきているが、演奏する側ではなく鑑賞する側が小・中学生ということか。

事務局：まだ詳細が決まっていない事業なのでこれから詰める必要があるが、地元の方に発表の機会を多く提供したいということと、子ども達が本物の芸術に触れる機会を多くしていきたいという意向がある。案では、対象者を小・中学生にすることを考えている段階である。

4 月 19 日に市役所ロビーで神奈川フィルハーモニー管弦楽団の震災復興支援のミニコンサートを実施した。昼休みの 45 分間、募金箱を設置して開催したところ大変好評であった。小規模でも喜ばれるもの

をやっていききたい。ミニコンサートのイメージとしては、出張してより多くの方に聴いてもらう方法や、毎年市民センターで行われている音楽発表会など生徒たちが多く集まる機会を利用する方法を考えている。

委員：4月に中央公民館小ホールを利用して250人くらいの来場者を対象に1,000円でチャリティーコンサートを行ったところ、45万円ほど集まった。音楽家協会に要請があれば、費用はなしで出向いて演奏する活動を続けていきたいと考えている。

委員：最近学生たちの吹奏楽がとても盛り上がっており、高い意識をもってやっていると感じている。生でレベルの高いものに触れることは刺激を受けると思う。邦楽や演劇でもそうだろう。ぜひ機会を増やして欲しい。

事務局：資料と一緒に配付した『たわわ第78号』に、囲碁教室の受講生募集記事が載っているので、詳細がわかると思う。

委員：囲碁教室は現在も受講生募集中である。今のところ土曜日は18名、水曜日は9名の生徒が集まっている。

事務局：平塚市の囲碁教室への取り組みは長く、底辺はかなり広がってきた。今年度いよいよプロ棋士の指導を継続的に実施できるようになった。さらにレベルが上がり平塚からプロ棋士が生まれることも期待している。継続して実施していきたい。

(2) 文化振興に係る国の動向について

資料：③文化芸術の振興に関する基本的な方針

事務局より説明

○国が出した文化芸術振興基本法に基づく第3次基本方針が閣議決定された。アーツカウンシルという文化活動の助成機関の新設を目指していることや、仮称劇場法といわれる、文化施設を定義づける法の整備をすること等、制度改革について明文化されていることが特徴になっている。

○市町村への影響としては、施設に係る法令ができることで、施設管理、運営における一定の基準が設けられたり、専門職の採用などが義務付けられたりすることが考えられる。今年度すぐということではないが、平塚市民センターにも一部影響があると考えられる。

【意見等】

委員：この方針の決定によって県の文化施策や平塚市の文化振興指針などは影響をうけるのか。

事務局：基本方針としてこれまでと大きく方向転換しているわけではなく、地域固有の文化の創造などが引き続き推進されている。この点は平塚市の指針でもカバーしている。ただ、仮称劇場法などは指針の中には反映されていないが、当面このままでよいと考えている。

委員：国語の正しい理解、日本語の教育に関する施策について書いてある章があるが、基本方針の概要版ではどの部分に含まれるのか。

事務局：8つある基本的な施策の1つであるので、概要版ではまとめて「基本的な施策」とだけ記載されている。

委員：アーツカウンシルは具体的にどのようなものか。市としては何かこれについて動きはあるのか。

事務局：イギリスなどに例がある、行政から独立した芸術家による助成審査機関である。日本ではまだ文化庁が直接助成金を出したり、文化庁と関わりが深い独立行政法人などが芸術文化振興基金を管理したりしている。助成対象事業の選考が不透明である等の課題が指摘されていたことから、舞台芸術の専門家による審査機関を設立し、優れた舞台芸術を支援していくことを目指している。平成23年度に、アーツカウンシル設立準備のための予算が文化庁につけられている。アーツカウンシルの取り組みは国がこれが

ら着手しようという段階で、地方自治体が独自に審査機関を設けるといのはまだ先ではないかと思う。

委員：国語の正しい理解についてだが、来年度に学習指導要領が刷新されるらしい。教育分野にも文化施策の影響が出ているようだ。

委員：地域に根ざした文化芸術は、深くより良くということで行政が助成するという一面もあると思うが、一方で、援助の対象となるようなものから外れた、突出したところから発生するという面も芸術の本質ではないか。国が力をいれるというのは全体の底上げや、保全や顕彰という意味ではよいが、野放しで自由に発展していくものに高い芸術性が備わるのが自然な姿であると思う。画一的な基準などで評価、助成することが果たして良いのかと思う。行政などが良いとするものに相反するような創造活動が芸術であるという点も正しいはずだと感じる。

委員長：国の基本方針が決定されたこと、今後平塚市の施策にも一部関係してくるということで御理解いただけたと思う。

(3) 平塚市の今後の文化振興施策について

資料：④平塚市の今後の文化振興施策

事務局より説明

○平塚市文化振興指針に掲げられる基本目標、施策の方向にそって整理した表となっている。昨年度の委員会で、今後推進していくべきものとして御意見や要望の声が強かったものを事業例としてまとめている。平塚市文化振興指針の計画期間である平成28年度までの取り組みを表にまとめたものである。

○平成23年度から予算化し、具体的な事業として着手されているもののほか、中・長期的な課題としてまちづくりや施設整備に係る内容もある。文化・交流課だけで実現できるものではないが、今後の課題として文化振興の観点から取り上げていきたい。

【今後の文化振興施策に関する意見等】

委員：大門通りの参道整備が話題になっているが、現在は国道一号線に分断されてしまっている。これについて何か具体策が動いているのか。

事務局：まちづくり政策課が担当しており、地元の商店街の方たち、市民のグループの方たちと、大門通りの活性化という目的でいろいろな取り組みをしている。昨年度はぼんぼり祭りの際にスタンプラリーの実施、また別の時期には朝市サミットが開催されている。文化振興の観点で文化・交流課も関わっていく予定である。

委員：新文化センターの建設について、場所等、どのような計画になっているのか。

事務局：見附台地区の総合的な整備計画の中に位置づけられている。まちづくり事業課が中心となり、崇善公民館、見附台体育館跡地、市民センターを含め、一体化した土地利用計画を進めている。予算が70億から100億円規模でかかることが想定され、庁内検討会が継続して開催されている。文化・交流課としては、木谷實記念館の構想も含めて新文化センターの建設に向けて働きかけていきたい。

委員長：昨年度基金の活用方針について何度か協議をしてきたが、金額的にハードに費やすことは現実的ではないということで、ソフトに活用していくという方針になった。

委員：アーティストバンクの運営は、対象者の予測なども難しく、運営が大変な事業になるのではないか。

委員：10年くらい前に一度だけ若手音楽アーティストのオーディションの開催をしたことがある。100名近い参加者がいたと思う。人数は多数集まったが技術的にばらつきがあったので、オーディションによる選考は必要だった。大学の教授や演奏家が審査員を務め、審査に丸一日かかった。継続できず、1回の開催で終わってしまった。当時からアーティストバンクのような形で人材育成につなげるという案もあった

が、続かなかったことは残念である。若手を発掘するというので、35歳くらいまで、これから長い期間活躍できる層を活かして欲しい。

委員：基金の300万円の使途が説明されたが、この先3年間程度はこの内容でいくということか。記念イベントについては今年度限りのようだが、それに代わるものを検討するのか。

事務局：囲碁教室以外の殿堂入りの記念事業など、今年度限りの部分もあるが、プロ棋士による教室、オーディションは数年続けていきたいと考えている。

委員長：平成24年度、25年度についてこの基金の予算割の計画というのは大まかにあるのか。

事務局：内訳の固定は考えていない。24年度以降はオーディションに関連して予算が必要になると思われる。囲碁教室の実施状況を踏まえて、オーディションに予算を集めていきたいと考えている。囲碁殿堂記念事業の予算が23年度のみの実施だが、その額を充てるだけで足りるものかも含めて、今後調整が必要な事項である。

委員：文化連盟の話をする、そこではいろいろな文化活動をしているが趣味の発表レベルになってしまっている一面があり、広がりや乏しさを感じている。限られた人同士の中で完結した活動になってしまっている、外に広げていくきっかけがあれば、既存の活動がもっと意味のあるものになる。他の文化振興の活動とより深く関わっていく必要性を感じている。

事務局：庁内と連携し、広がりをもたせ、『たわわ』をさらに活用するなど、文化・交流課としてもつながりを強くしていきたい。いずれ庁内、市民だけでなく、企業などとも連携していけたら良いと思う。

委員：様々な連携について、文化連盟の集まりでも強く訴えていきたい。そういう活動の面白味を知ってもらえれば、もっと自分たちの活動が活性化すると考えている。

委員：昨年12月議会での質問だが、文化連盟の所管を社会教育課ではなく、文化・交流課にして文化振興にもっと活かしてはどうかという声があった。今後、庁内で社会教育課と文化・交流課が連携し、情報交換をより密にする方針である。次に基金の活用についてだが、3箇年の計画が出ている。予算額、使途は決まったものではなく、議会でその年ごとに承認されるものなので、もっと意見を反映させる余地がある。金額や、使い道についての協議ももっと活発にさせていただいて欲しいと思う。

【その他質問等】

委員：場づくりについて、以前にことば館について意見を出させていただいた。そういった内容は、庁内での会議の場などに伝わっているのか。

事務局：委員会で出た意見は庁内検討会議、ワーキングにも提供している。

委員：『たわわ』をみると、市民センターの催しで、高等学校吹奏楽部の定期演奏会などの利用も多い。そういう利用を助成はできないものか。部活動の一環だとするとどの学校も予算的に厳しいのではないのか。

委員：教育活動の一部と考えると、学校の予算ではない市民の文化活動の予算をそちらに回すことは難しいのではないと思う。

委員長：『ぴあ』の休刊が決まった。情報誌の在り方、必要性が大きく変わってきているのではないと思う。ネット情報の配信によるものとするか、そもそもの必要性が低下したのか、いろいろな考え方があると思う。『たわわ』の位置づけも文化振興において今後どういう役割を担っていくのかを考えることも良いのではないのか。

事務局：平成21年度までは各号6000部発行されており、22年度以降は各号4800部を年に4回発行している。平塚市内の学校、金融機関、文化施設、文化団体等に配布している。平塚市に関連の深い記事を掲載しているが、オールカラーの紙面で発行することが時代にあっているかという声もあると思う。いろいろな御意見をうかがっていききたい。

委員：震災後いろいろなコンサートが自粛になっているが、文化や芸能は大事であり、文化こそ、その背景にある地域の活動、人間の生活を映している。震災後、謡曲連合会の公演を中止にするのかどうかと問われたが、中止するという考えはまったくなかった。創造活動、舞台での上演は、そこにとどまらずその活動から広がりがある。想像力は、思いやりや大きな力を持ったものなので、その地域の価値が反映される。震災を機にそういった本質について考えた。

委員長：平塚の七夕の開催はどうなったのか。

委員：7月の8、9、10の3日間の開催に決定した。開催にあたり、安心、安全が確保できるのかという観点もあり、中止が検討されていたが、主催者を平塚市から商工会議所へ移し、規模も縮小されての開催となる。

委員：基金自体の宣伝についてだが、控え目だと感じた。以前大磯で旧吉田茂邸の保全のための寄附のチラシを見たが、振込先が載っていて、そのための用紙が用意されており、大々的にやっている印象であった。平塚市の場合は奥ゆかしすぎてどうしてよいかわからないので、もう少し派手に宣伝してはどうか。

事務局：これまで寄付を募るという活動をほとんど行っていなかった基金のため、宣伝が甘いことはたびたび指摘されている。今後基金を活用していくにあたり、寄附を増やす活動にも力をいれていきたいと考えているので、いろいろ御助言をいただきたい。

5. その他

次回の日程 11月18日（金） 午後1時30分から 平塚市民センター

6. 閉会